

議会からのお知らせ

問合せ 議事課
☎ 052-603-0031

6年第1回市議会定例会が開催されました



△議案件名・会議結果一覧

令和6年度東海市一般会計予算など 41 議案を可決

日程	内容	概要
3/1	本会議	・市長から令和6年度施政方針演説 ・令和6年度東海市一般会計予算など 34 議案を上程、説明
	議会運営委員会	・人事案件の候補者などについて協議
3/11	本会議	・代表質問（4人）
3/12	本会議	・一般質問（6人）
	議会運営委員会	・付議事件の追加などについて協議
3/13	本会議	・一般質問（4人） ・34 議案に対する質疑、所管の各委員会に付託 ・訴えの提起についての議案 1 件を上程、説明、質疑、所管の委員会に付託
	総務消防委員会	・付託議案（1件）を審査
	議会運営委員会	・再開後の本会議の運営について協議
	本会議	・付託されていた議案について委員長からの委員長報告、質疑、討論、採決
3/15	建設環境経済委員会	・付託議案（15件）を審査
3/18	文教厚生委員会	・付託議案（12件）を審査
3/21	総務消防委員会	・付託議案（10件）を審査
3/22	議会運営委員会	・付託議案（1件）を審査 ・令和6年第1回市議会定例会最終日の運営方法などについて協議
3/26	本会議	・付託されていた 34 議案について各委員長からの委員長報告、質疑、討論、採決 ・教育長の選任についてなど同意議案 4 件を上程、説明、質疑、討論、採決 ・東海市議会の議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部改正についての委員会提出議案 1 件を上程、説明、質疑、討論、採決 ・令和6年度議員の派遣についての議案 1 件を上程、質疑、採決

今回可決された主な内容

■東海市創造の杜交流館の設置及び管理に関する条例の制定について

生涯学習及び創造的活動の振興並びに多様な交流の機会の創出を図るため、東海市創造の杜交流館を設置し、当該創造の杜交流館の設置及び管理に関し、必要な事項を定めるため制定するもの。

■6年度当初予算額

- ◎一般会計…591 億 6,300 万円
- ◎国民健康保険事業特別会計…93 億 4,537 万円
- ◎後期高齢者医療事業特別会計…20 億 5,427 万円
- ◎太田川駅周辺土地区画整理事業特別会計…17 億 354 万円
- ◎加木屋中部土地区画整理事業特別会計…10 億 7,258 万円
- ◎水道事業会計…36 億 4,393 万円
- ◎下水道事業会計…106 億 5,644 万円

■5年度東海市一般会計補正予算（第8号）

- ◎補正額…6 億 3,416 万 6,000 円を増額
 - ◎予算総額…601 億 248 万 4,000 円
- 増額となる予算は、鉄道事業者の本線工事を追加実施することによる養父森岡線街路整備事業などによるものです。
- そのほか、国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）、後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第3号）、加木屋中部土地区画整理事業特別会計補正予算（第2号）、水道事業会計補正予算（第3号）、下水道事業会計補正予算（第3号）などが可決されました。

第1回市議会定例会の代表質問は4人の議員から、一般質問は10人の議員から質問がありました。その要旨は次のとおりです。

なお、紙面の都合上、一部割愛させていただきましたので、ご了承ください。

代表質問

質問 本市のこれまでの発展と歩みを振り返り、現状の評価、めざすべきまちの将来像及びまちづくりを牽引するトップリーダーとしての意気込みについて

答弁 本市は、昭和44年4月の市制施行以来、先人の方々のたゆまぬ尽力により、農業や工業、商業がバランスのとれた発展を遂げてきました。

そして、市長就任後においては、コロナ禍であっても、これまでのまちづくりの歩みを止めることなく、新駅整備

や土地区画整理事業などの都市基盤整備、子ども医療費助成の拡大を始めとした子育て支援などの取り組みを先進的・戦略的に進めてきたことにより、市民生活や地域経済活動が大きく停滞することなく発展し、県内でも指折りの活気あふれる元気なまちとして着実に進展しているものと考えています。

今後については、全国的な人口減少、少子化・高齢化のさらなる進行など、社会情勢の急速な変化に的確に対応していくことが求められる中、市制55周年を迎える6年度からは、第7次総合計画をスタートさせ、新たな10年先を見据えたまちを展望し、将来都市像である「ともにつながり 笑顔と希望あふれるまち とうかい」の5つの分野のめざすまちの姿の実現に向かって、協働・共創のまちづくりのもと、「オール東海」として「つながり」を大切に、市民から信頼される、また、市民の期待に応えることができるよう、全力を傾注し、市民一人ひとりの笑顔と希望があふれ、一層のにぎわいと元気あふれる持続可能なまちづくりに積極的に取り組んでいきます。

質問 中学校部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行について、現在の検討内容及び移行を進める理由について

答弁 5年5月に中学校部活動の地域移行推進委員会を設置し、休日の部活動を地域での活動へ移行するための検討を進めているところで、その検討内容としては、国が改革推進期間として位置づけている最終年度である7年度の夏の大会が終わる9月以降は中学校での休日の部活動を行わないこととし、それまでに生徒たちが休日に活動することができる持続可能な場を整備するための方向性や課題について検討しているところです。

地域移行を進める理由としては、教員の働き方改革といった観点だけでなく、東海市の中学生が、いつでも、だれでも、楽しく参加できる活動の場を地域に設け、さまざまな活動を体験することができる環境を整備することが、生涯にわたってスポーツや文化芸術活動を親しみ続けるために、また、生徒の自主的・主体的な参加による活動を通じ、責任感・連帯感の醸成や、自主性を育むために必要であると考えています。

質問 政府が目指す賃上げと経済成長の好循環に関して、本市が採った方針とその実現に向けた6年度予算編成について

答弁 政府が5年6月に閣議決定した「経済財政運営と改革の基本方針2023」においては、人への投資を強化し、労働市場改革を進めることにより、物価高に打ち勝つ持続的で構造的な賃上げを実施し、賃金上昇やコストの適切な価格転嫁を伴う「賃金と物価の好循環」、「成長と分配の好循環」を目指すこととされています。

本市においてもこの政府の基本方針を踏まえ、特に賃金の引き上げによる影響の大きい委託料と工事請負費の6年度の予算編成にあたっては、すでに実施している委託や工事についても、発注方式、適切な人員配置及び経費内訳などの見直しの検討を行うとともに、委託料においては人件費や物価の増加を、工事請負費においては労働環境の改善を目的とした週休2日制工事の導入や労務単価の引上げを踏まえて、事業者から参考となる見積書を徴取し、必要に応じて、事業者の賃上げに対応する予算編成を行なったところです。

今後も、非正規雇用労働者処遇改善や最低賃金の引き上げを始めとする国の主導による賃上げに伴う人件費の増加傾向が続くことが想定されるため、社会情勢の変化に柔軟に対応し、経済成長につながる予算編成に努めていきます。

質問 6年度より拡充されるパートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度に関する、性の多様性への理解増進を図る方策について

答弁 性の多様性についての理解を深めるために新たにパンフレットを作成し、公共施設で配架するとともに、男女共同参画基本計画の事業所アンケートに協力いただいている市内事業所への配布を予定しています。

また、多様性を認める社会に向けた活動をしている団体などと協力して、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度の周知を図るとともに、性の多様性についての理解が図られる講演などの機会を設けていきます。



一般質問

質問 世界蘭会議2024で発表された「ランの道」の今後の魅力向上について

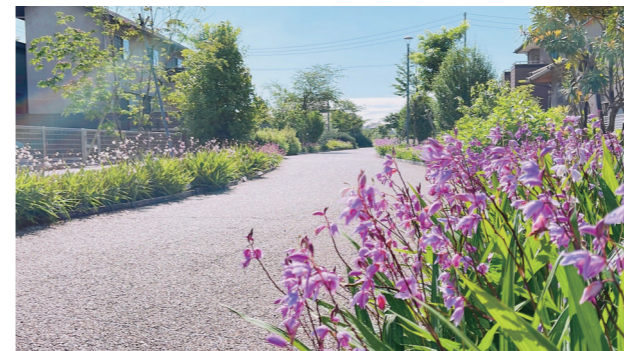
答弁 世界蘭会議は、国際的で大規模なランの祭典で、開催国を変えて3年ごとに行われる「ランのオリンピック」とも称され、世界20か国以上、20万人を超えるランの専門家や愛好家が集まり、最新の専門的知識や話題を共有することを目的として開催されるもので、先月、愛知教育大学の名誉教授である市橋正一先生によって「太田川駅東歩道ランの道」の取り組みが発表されました。発表された主な内容は、東海市の紹介から始まり、ランが地域の特産品となった経緯のほか、東海市の新しい観光資源となることを目指し、地域と行政が一体となって延長約600mにシランやフウランなど、12種類、7,000株以上の色とりどりのランを植栽し、日本では類を見ないものとなっていること、そして新たな挑戦として、白い花が美しいサギソウの栽培に取り組んでいることについても紹介さ

れました。

この発表を受け、今後の「ランの道」の魅力向上については、ランの見応えをさらにボリュームアップするため、株分けしながら植栽帯の幅を広げていきます。

また、より多くの市民にランに親んでもらうため、地域や学校のほか、花のまちづくり運動との連携により「ランの道」の育成に関わる市民を増やしていくとともに、株分けした苗を配布し、身近な場所で育ててもらうことで「らんのみち東海市」の魅力在市全体に広がっていきます。

そのほかには、「ランの道」の魅力をこれまで以上に広く知ってもらうため、多くの来場者が訪れるパン・スイーツマルシェやウォーキングイベントとの連携やSNSの活用などによる情報発信に努めていきます。



質問 創造の杜交流館から尾張横須賀駅西側までの街路灯の整備及び創造の杜交流館周辺道路の美化について

答弁 尾張横須賀駅の西側地区については、平成25年度に策定した「横須賀文化の香るまちづくり基本構想」に基づいて、まちづくりを進めているところです。

そのまちづくりの基本的な方向性として、創造の杜交流館から都市計画道路横須賀駅西通線の駅前広場までの周辺道路については、山車まつりが映える景観まちづくりとして、「文化と山車のみち」に、位置付けています。

また、愛宕神社から横須賀駅西通線の駅前広場までの区間については、歴史的な環境や沿道景観と調和した街路灯、舗装など、地域の合意を得ながら整備を進めてきたところで、整備が完了した路線については、古いまちなみに合った落ち着いた雰囲気を出せることができている。

創造の杜交流館周辺道路についても、横須賀文化の香るまちづくりを進める地区として景観の統一性を考慮する必要があると考えていますので、5年度から進めている「横須賀地区まちづくり検討業務」において、周辺地区の景観、にぎわいなどについて、地域の方や有識者、学生とワークショップなどを実施しながら、街路灯や道路の美化につ

いても検討を始めたところです。



質問 国における保育士の配置基準の見直しへの本市の対応について

答弁 現在、本市の配置基準は、保育士1人に対して、0歳児は3人以内、1・2歳児は5人以内、3歳児は20人以内、4・5歳児は30人以内としており、1・2歳児においては、国の示す配置基準を上回る基準を設けています。

しかし、慢性的な保育士不足などにより、一部の保育園において、国を上回る配置基準を満たしていないところもある状況です。

今回見直された新たな配置基準では、1人の保育士に対して、3歳児は20人から15人に、4・5歳児は、30人から25人にすることが発表されています。新しい基準を満たすための早急な保育士の確保は非常に困難であるため、具体的な時期は未定ですが、当面の間は経過措置期間として従前の配置基準による人員配置を継続せざるを得ないと考えています。

今後、人口動態や社会動向を見ながら、新しい配置基準への移行も見据えた保育士の適正な配置に努めていきます。



質問 今後のコミュニティや町内会・自治会を始め企業、大学などの多様な主体との協働の進め方について

答弁 現在、本市では、コミュニティを重要なパートナーとして協働・共創のまちづくりを推進するため、緑陽コミュニティを始め4つのモデル地区において懇談会を実施しており、地区ごとの状況に応じて、今後、取り組むテーマが見えてきたところです。

このようなモデル地区を始めとした各種取り組みを着実に推進するためには、地域の方の参加とコミュニティ、町内会・自治会、市民活動団体に加えて、企業、大学なども含めた多様な主体が役割分担し、相互連携とネットワークを強化させた新たな協働の推進体制が必要となります。

このことを踏まえ、6年度から7年度にかけて、学識経験者を始めコミュニティ、NPO法人、企業の関係者などで構成する検討委員会を新たに設置し、地域課題を効率的・効果的に解決するための人材の発掘と確保の方策、団体間のマッチングの仕組みづくり、協働による地域づくりに必要となる各種支援制度などの協議を進め、コミュニティを中心とした地域運営体制づくりのさらなる推進を目指していきます。



質問 胃癌リスク検診の対象者を拡大する考えについて

答弁 本市の胃癌に関する対策としては、バリウムによる胃癌検診と胃癌リスク検診を実施しており、胃癌リスク検診はバリウムを飲むことが苦手な方でも血液検査のみで胃癌のリスクが判定できるため、負担が少なく、特定健康診査の血液検査により同時に行うことができる検査です。また、6年度からバリウムによる胃癌検診に加え、新たに胃内視鏡検診を導入し、胃癌検診が受けやすい環境整備を進めているところです。

さらに、胃癌の発症を少しでも減らすためには、ピロ

リ菌への感染が胃癌を発生しやすい慢性胃炎を引き起こすことから、できる限り早期に胃癌リスク検診を受け、必要な方はピロリ菌の除菌などの治療を開始することが重要であると考えています。

現在、胃癌リスク検診は41歳から5歳刻みの無料クーポンの対象年齢の方が受診できますが、今後は、対象年齢を引き下げ、若年層から、できる限り多くの方に受診機会を設けることができるよう地元医師会と調整を図っていきます。



質問 市内に浸水位標識を設置するなど、過去の浸水被害の状況などを現地で後世に伝える取り組みの必要性について

答弁 浸水位標識を設置することは、浸水の危険箇所を地域住民が認知し、防災意識を高め、適切な避難行動を促す重要なものであると認識しています。

現在設置されている標識は、昭和34年の伊勢湾台風の浸水位を示すものが名和駅ロータリーと国道247号を跨ぐ国道302号の橋脚に設置されています。

また、大田川流域の浸水対策である100mm/h安心プランのソフト対策事業として、地域住民とともに水害手作りハザードマップを作成する際に、地域の危険箇所や過去の浸水深を確認し、安全な避難路の検討を行っており、平成21年の台風18号で実際に浸水した深さを表示した浸水実績表示板を地域住民とともに設置しています。

浸水実績表示板は今までに、加木屋コミュニティ、船島コミュニティ、明倫コミュニティの3地区で合わせて20枚設置し、この表示板を活用した避難行動訓練を行なっています。現在、周辺の他地区においても浸水実績表示板の設置などを要望する声が上がっていますが、まずは100mm/h安心プランの構成団体である大田コミュニティ、平洲コミュニティの2地区で表示板の設置を進める予定です。

このようなことから、浸水位標識の設置は、過去の浸水被害の状況などを現地で後世に伝える有効な取り組みとして、地域における水防活動の強化につながると考えています。

質問 緑陽公園にトイレトレーラーを配備して防災機能を強化することについて

答弁 緑陽公園基本設計では、太佐山高射砲陣地跡の南東部のキャンプゾーンにおいて、テントサイトのほかオートキャンプサイトを計画しています。計画しているキャンプゾーンは、応急仮設住宅の建設候補地にもなるので、災害時における衛生環境の改善につながるトイレトレーラーの配備は、防災機能の強化につながるため、近隣市町で所有する刈谷市や阿久比町など、先進自治体の運用方法や課題について、情報収集していきます。

質問 5歳児健診を実施する自治体に、国の助成事業が始まったが、5歳児健診の実施に対する本市の考えについて

答弁 本市では、発達特性のある子どもの支援のため、乳幼児健診を始めとする健診、相談の場面に限らず、保健師に加え、臨床心理士が定期的に保育園を巡回しています。また、市内の幼稚園を始めとする民間施設とも連携を図っており、随時、必要に応じて市の保健師が施設に向き、発達相談や進路相談などの個別相談を行うことで早期の支援につなげています。

発達特性は、成長とともに表面化することもあるため、健診などの限定された場面での発見ではなく、関係施設と常に連携して継続的に見守りを行い、子どもの心配な様子が分かった時点で、保護者との相談や療育などの支援につなげています。

また、6年度から設置する、こども家庭センターにおいて心理職を配置するなど、切れ目のない支援の体制を強化しているところなので、5歳児健診の実施については、引き続き、国や先進自治体の動向を注視していきます。



質問 らんらんバスを1時間に1本走らせてほしいという多くの市民からの要望の検討について

答弁 らんらんバスの次期ダイヤ・ルート再編については、4年度に実施した乗降調査による乗降パターン

や、利用者の平均乗車時間などを考慮しながら、地域公共交通会議において協議・検討が進められてきました。次期ダイヤ・ルート再編では、既存ルートと比較し、ルート距離を一部短縮した5ルートに運行エリアを再編しており、その結果、各路線が需要の多い太田川駅からアピタ・しあわせ村間などの一部区間を補完し合うことで、1時間に1本以上の運行を確保し、乗車される方の利用時間帯の選択肢が増えるよう改善を図っています。

また、利用ニーズの多い午前の時間帯に、バス車両を最大8台体制とすることで、運行間隔の短縮や主要施設へのアクセス向上を図るとともに、バス運転手の労働環境の改善を踏まえた運行体制への転換、カーボンニュートラルに対応するEV車両の車両充電時間の確保など、さまざまな課題を整理したうえで運行計画を立てています。

今後も多様化する移動ニーズに合わせ、らんらんバスの増便だけに限らず、デマンド交通の活用など、地域特性に応じた輸送資源を最大限に活用することで、市民の移動ニーズの充実を図っていきます。



質問 ばいじん公害に係る市民との意見交換会を開催してほしいという要望書に対し、開催しないと回答した理由について

答弁 市では、広報紙やホームページ、環境概況などを通じて、降下ばいじん量の測定値や企業の対策状況などを市民に情報提供するとともに、降下ばいじんに関する幅広い意見について、市政提案箱、総合計画に関するアンケート調査、市民からの電話相談やメールなどにより把握しているため、改めて意見交換会を実施する考えはありません。

詳しい質問の内容については、QRコードをご覧ください。

